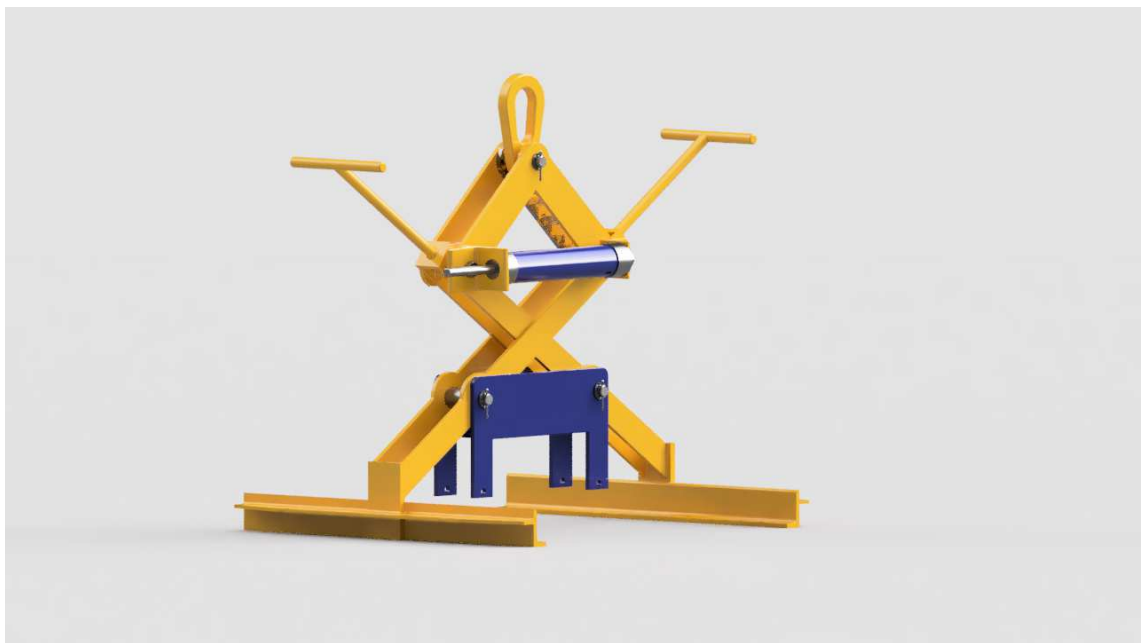


鉛インゴット吊り具(鉛浴槽インゴット投入専用吊り具)

鉛インゴット専用吊り具最大吊り上げ荷重

250kg (鉛インゴット 50kg 5 個)

取扱説明書



作業開始前に、必ずお読みください

1 背景

従来の吊り具は鉛インゴットをホイストで吊り上げる時吊り具のアームを手で開き吊り具を下降して鉛インゴットを掴みホイストで吊り上げ鉛インゴットを鉛浴槽の中に入れて吊り具でインゴットを掴んだままで鉛を溶かしています。鉛が溶けると吊り具をホイストで吊り上げ次の鉛インゴットを吊り上げにいきます。その時吊り具のアームを手で持ちアームを開いて鉛インゴットを掴んでホイストで吊り上げますが、大変吊り具が熱くなっています。今回吊り具の改善は床か水平な所か鉛インゴットの上に吊り具を置くだけで吊り具の自重によりアームが開きアームが開いたまま吊り具を吊り上げるとアーム開のままロックする機構を持ち吊り具を吊り上げもう一度鉛のインゴットの上に吊り具を降ろせばロック解除となりアームで鉛インゴットを掴む吊り具を提供します。

従来の吊り具は圧縮してインゴットを掴んでいるのでインゴットの寸法 形状が少しぐらい違っても掴んでいましたが、今回の吊り具は形状の許容範囲がありホイストで吊り上げの時荷が振れるとアームからインゴットが滑って落ちる危険性をもっています。荷の重心には十分気を付けて下さい

これから吊り具を使用しながら改善して鉛を補充する作業の安全を確立していきたいと思っております
ご協力よろしくお願いします。

2 作業前の確認について

- 1 吊り具を外観検査 変形・亀裂・溶接外れ・割リピン・ナット脱落等のある時は、使用しないでください 作動不良のチェック使用前に空荷で3回作動を確認してください、
- 2 吊り具を水平な床の上に置いてアームの変形 5mm 以内 アームが閉じたとき $713 \pm 3\text{mm}$ になった時使用禁止修理してください
- 3 吊り具のアームの幅は 670mm 鉛インゴット5個分ですが、1個の時と2個・3個・4個 吊り具のセンターで安定しますが、吊り具に荷重が掛かった時にクレーン操作を必ず一旦停止して アームとインゴットの掛かり具合と安定バランスを確認してから鉛インゴットを吊り上げて下さい、あくまでも鉛インゴットを鉛浴槽に投入用の吊り具です。運搬する時は必ず吊り具のセンターに荷を吊って鉛インゴットの滑り止め用のシャコ万を取り付けてください(図-3)
- 4 吊り具が450℃以上で空冷してくださいお願いします 火傷に気を付けて下さい

3 ホイスト操作について

- 1 最大使用荷重を超える吊り荷は、絶対吊らないで下さい 鉛インゴット5個まで
- 2 吊り荷やアームに衝撃荷重が働くような操作はしないで下さい 荷の吊り上げ時一旦停止
- 3 荷の運搬時 吊り荷を振らさないで下さい 鉛インゴットがアームから滑り落下の危険有 運搬する時はアームから鉛インゴットが滑らない様に処置をしてください

図-3

ホイスト運搬作業時 吊具のアームに写真の様にシャコ万を4個取付

鉛インゴットがアームから滑って落下しない処置をしてください。

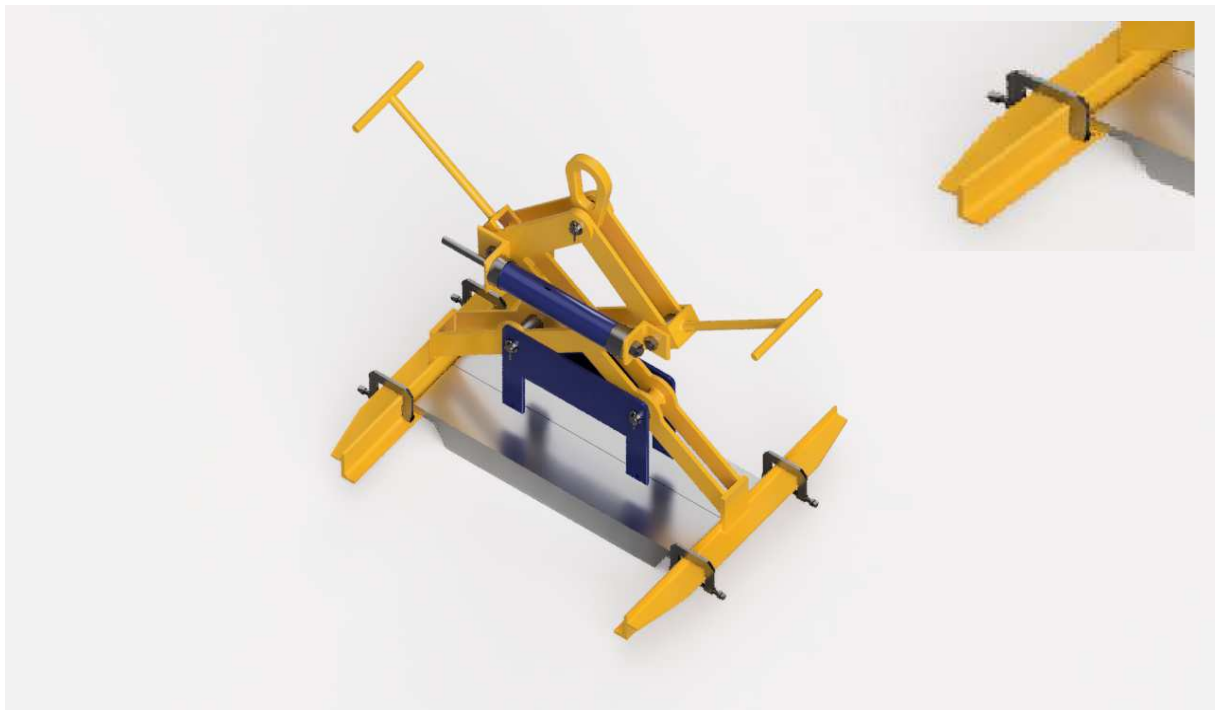
鉛インゴットが落下する要因として

ホイスト操作の 荷の振れにより

ホイスト操作の誤操作で吊り具が物に当たることにより

鉛インゴットの形状の長さの違いにより鉛インゴットをアームで掴んでいないためアームから滑る

吊り具のセンターに鉛インゴットがあっていない時、吊り具が傾くことにより



1. 吊り荷の前後・左右の各々の方向から吊具位置を確認し 重心上に移動させる 1 芯
2. 吊り荷が浮き上がる直前で停止し アームと鉛インゴットの状態が正常であることを確認する。吊り上げる前に 万が一の事態（吊り荷の振れ、落下など）に備え周囲の安全を確認する。 2 張
退避はホイスト走行（横行）方向の4 5 度方向で2 m以上離れること。 3 退避
3. 地切りしたら約1 0 c m高さで一旦停止し 吊り荷の安定（振れ・傾きなきこと）を確認する